

2013 北海道旅ログ その5

6 日目

朝日を迎える丘陵の写真が撮りたい。

そんなこともあって美瑛の丘にある宿に泊まった。2泊の予定だ。

日の出の時間より前、朝4時起きでバイクを走らせたが、そこは、どこまで行っても白い世界だった。朝霧の上にも分厚い雲があるようで、7時まで粘ったが、その時ははるか上空の雲の切れ目に太陽がいて、完全に空振りだった。

神奈川から来たという人と出会ったが、その人も残念そうに、霧の風景にシャッターを切っていた。

仕方なく宿に戻り、朝食。

9時前には再び出発。

とにかく丘の風景を撮りたい。

マイルドセブンの丘に着いたときは晴れ上がっていた。

ここは、10年前、先代スカブで来たときも晴れてくれていて、なかなか相性のいい場所だ。ちなみに当時と同じジャケットで今回も来た。

次に親子の木に向かった。

ここは木の向こうに雲の層があり、ちょっと残念だが、それでもシャッターを切る。ちなみに、ここもマイルドも案内板が立っているが、そこから見る風景はベストショットと言える。ひよっとすると、写真家の方が、案内板の設置位置を助言したのかもしれない。撮影場所を探すなら、迷わず案内板を目指すといい。



いくつかの展望台に行き、写真に納め、それから、吹上温泉に向かった。



十勝岳温泉は「夏の陽」でも描写しているが、その当時も訪れた。今は建物が建て替えられているようだ。標高が高く、当時寒かった憶えがあるし、「コキタナイキタキツネ」を目撃したことも憶えている。吹上温泉は「北の国から」で知って、その後、10年前の先代スカブ旅で来たことがある。実はどっちに行こうか迷っていたのだが、その分かれ道に来たところ、十勝岳まであと1kmくらいだが、どうも黒雲の中に突入しそうだったので、吹上温泉に決定した。



ここは、入浴料も駐車場代も無料だ。ただし、簡易な更衣所（室ではない）だし、青い池とおなじ傾斜のある砂利駐で、トイレは駐車場の隅に工事現場にあるような仮設トイレだ。

駐車場の奥から湯船を目指し、林道のような小道を降りていく。1分くらいか。更衣所ですっぽんぽんとなり、タオル一丁で、湯船に浸かる。湯温は高く、野趣あふれる温泉だ。

「はあ～極楽極楽」と、周りに人が多いから声には出さないが、そんなことを思いながら過ごす。湯船はそんなに大きくない。おまけに周りは崖になっている。よくこんなところで、しかも雪の中で、「北の国から」のスタッフさんたちはロケできたものだ。カメラや照明やら、出待ちなどの設営は、大変だったに違いない。帰ったらあのシーンをもう一度見てみよう。

さて、温泉を出て、白金温泉方向へ走る。青空の下、快適な天空ルートだ。白金を通過し、山をおりてしばらく行ったところで左折した。拓真館へ行くためだ。現地に着くと、もうあまり時間がなかったので館内には入らず、あたりの風景を撮りたくてうろうろしていると、裏手に絶景の丘陵風景を見つけた。その時の写真を写真ページにアップしている。2軒の小屋や、なだらかな丘の写真はここで撮った。つい時を忘れて写真を撮りまくった。

日の入りは6時前。急ぎ親子の木に向かった。前夜、宿のスタッフさんに、木の向こうに陽が沈むと聞いていたからだ。朝日は撮り損なったが、夕日はぜひモノにしたい。その時の写真も写真ページにアップしている。ベストな位置関係ではなかったが、それなりに撮れたと思う。で、夕日ばかりに注目していると、反対の空におぼろ月が姿を見せ始め、それはもう美しかった。夕日といい、月といい、辺りを包む鈴虫の音、ひやりとした空気、お互いに写真を撮ってあげたりして「ありがとう」の言葉を交わす、そこで出会った人たち。どれをとっても本当に至福のひとつときだった。私の人生ではもう二度とないだろう。

あとにして思うと、今回の旅はこの瞬間がピークだった。この時のために私は長い間準備の努力をし、上司を説得して休みをもらい、お金を12万円くらい使ったのだ。でも、それはそれで幸せだったし、いとおしく、きらきらとした宝石のような思い出がまたひとつ増えたと思う。

宿に戻ると、当然だが、昨夜同宿だった大阪のNinjaさんのバイクがなかった。ちゃんと挨拶しておらず、寂しくもあった。

その5終わり。最終回その6へ続く。